# 国語科　中学校　2年

単元名　古典に親しむ
「仁和寺にある法師
―「徒然草」から―

## 本時の流れ　（第５時）

本時の目標
　グループで優秀作品を選び、発表を聞き合うことにより、古典「仁和寺にある法師」の世界を楽しむ。

**本時の目標の把握**
本時の目標を理解する。

【目　標】グループで優秀作品を選び、発表を聞き合うことにより、古典「仁和寺にある法師」の世界を楽しむ。

各グループに分配された作文から、優秀作品を選ばせる。

推薦作品に選ばれた作品の作者による朗読を聞き、「仁和寺にある法師」に表れた作者の思いなどを想像する。

作品の交流を通して、「仁和寺にある法師」の読解を深める。

**グループでの話合い**
優秀作品を選ぶ。

1　4人グループを作る。司会を決める。
2　分配された作文を回し、読む。
3　それぞれの作品の良い点をメモする。
4　司会進行のもと、優秀作品を選ぶ。
5　発表者を決める。

作者の名前は伏せておく。

グループで話合いをすることにより、他の人の考えを聞く姿勢を育てる。

本文の内容を理解しているかが選定のポイントになることを確認する。

「仁和寺にある法師」の内容をふまえた作文であるかを判断するよう伝える。

ワークシートはこちら　CLICK

**集団解決**
作品が優れている理由を文章にまとめる。

選定した作品が優れている理由を出し合い、選定の観点を明確にして文章にまとめる。

**発表**
優秀作品を発表する。

各グループの代表者が、選んだ優秀作品を紹介する。
発表者（作者）が作品を朗読するのを聞き、メモを取る。

**授業の振り返り**
作品から学ぶことを整理する。

作文を書くことにより新たにわかったことを発表し合う。

兼好法師の意見が現代にも通じることに気付かせる。

### 「活用」の力を育てる評価の視点

①　本文の主旨をもとに、自分の意見をまとめている。
②　読み手の興味を引くように表現を工夫している。

　グループで優れた作品を選定する際、「本文の主旨をもとに意見をまとめているかどうか」について、本文のどこにどのように書いてあるか、根拠を明確にしながら話合いをさせることが大切である。本文の読み取りを生かした話合いをさせることで、「本文（テキスト）から取り出した知識や情報を、目的に沿って取捨しまとめていく能力」を育成する。
　また、「誰に向けて表現するのか」、「受け手の立場を考えて表現しているか」など、効果的に伝わるように表現しているかについても話し合わせることが大切である。

単元の流れへ　HOME